

〔井の頭池〕1933年頃から帰化したオオカナダモは、1964年まで大繁殖していたが、1965年の浚渫工事以来絶滅し、現在にいたっている。

〔六義園の池〕1972年、筆者は駒込にある六義園の池に多量のオオカナダモを確認したが、1982年の浚渫工事によって絶滅し、現在にいたっている。

〔豊田の池〕中央線豊田駅近くの湧水をためた小さな池に、オオカナダモの自生を確認したのは1978年だった。1986年現在ではそこが公園となり、池にはオオカナダモがほとんどなくなってしまった。

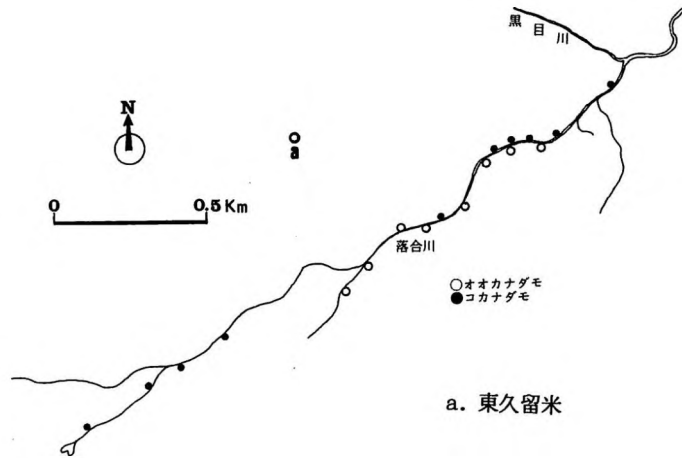


図4 黒目川流域のオオカナダモとコカナダモ (1981)

矢野<sup>9)</sup>によれば、1958年頃の東京では、すでにクロモの採集がむずかしくなっていたらしい。クロモはオオカナダモにとってかわられたが、そのオオカナダモの自生地も減少し、現在にいたっている。その後侵入してきたコカナダモは、秋川流域で猛威をふるったが、それも絶滅しようとしている。このような歴史の中で、都心部を流れる善福寺川のオオカナダモは健全である。これは、下水道が完備したことと、毎年繁殖したオオカナダモを刈りとり、川の手入れをしているためと思われる。

水生植物の変遷の歴史には、人間の生活がよく反映さ

れている。このような観点から水生植物を見なおし、その変遷を、今後注意深く見守ってゆきたい。

#### 文 献

- 1) 百瀬忠征. 遺伝. 28(9), 84-89 (1974).
- 2) 百瀬忠征. 都生研会誌. 18, 1-5 (1982).
- 3) 大滝末男. 植物採集ニュース. 66, 69 (1973).
- 4) 生嶋 功・大滝末男. 都市生態系の構造と動態に関する研究 (1976).
- 5) 矢野 佐. 遺伝. 12(6), 48-51 (1958).

○辻 誠一郎・南木睦彦・小杉正人『茂林寺沼及び低地湿原調査報告書 第2集 館林の池沼群と環境の変遷史』(館林市教育委員会、1986年3月、110頁+図版I~XXXV)

関東平野の北西部に位置する館林市(群馬県)の池沼群、すなわち茂林寺沼、古城沼、多々良沼、蛇沼の堆積物の研究から、当該地域の植生と環境の変遷史を構築しようとした試みの報告書である。水生植物の変遷史を中心課題のひとつとして、これほど実証的な検討が行なわれた例は、今までになかったであろう。

この調査の目的は、当然のことながら館林の池沼群の研究にあるが、著者たちのねらいはそれにとどまらない。「池沼群と環境の変遷史を解き明かすためにどのような

調査・研究が講じられるべきかを模索し、その方法の一例を示すとともに、この調査・研究の重要な部分を占める植生史の研究のあり方を考えることである。」著者は、それぞれ花粉化石、大型植物化石、珪藻化石を中心に日本の植生史を再構築しようと精力的に活躍しておられる新進気鋭の研究者であるが、その意気込みが知れようというものである。

最後の章は主要植物化石の記載である。多数の水草の花弁あるいは種子遺体の記載とプレート写真が含まれる。「……これらの記載は…読んですぐさま役立つという性格のものではないが、今後の研究の展開に重要な役割を果たすはずである。」という著者の考えにもとづくものである。(角野康郎)